

小樽港長期構想



令和 2 年 12 月

小樽市

目 次

はじめに	1
第1章 小樽港の現状	3
1.1 位置・沿革・特徴	3
1.2 利用状況	6
1.3 物流・産業の状況	12
1.4 観光・交流の状況	18
1.5 安全・安心の状況	25
第2章 小樽港を取り巻く情勢・関連計画	28
2.1 国内外の情勢	28
2.2 北海道の情勢	30
2.3 小樽市の関連計画	32
第3章 小樽港の目指すべき姿	37
3.1 意見・優位性・役割等の整理	37
3.2 目指すべき姿	38
3.3 小樽港の基本目標と将来プロジェクト	39
3.4 小樽港が目指す効率的なふ頭再編・利用再編イメージ	40
第4章 将来プロジェクト・施策	41
4.1 日本海側フェリー拠点の形成	41
4.2 北海道日本海側における穀物基地の形成	47
4.3 多彩なネットワークで結ばれる対岸貿易拠点の形成	51
4.4 沖合・沿岸漁業を支える水産活動基盤の形成	56
4.5 北海道日本海側におけるクルーズ拠点の形成	58
4.6 北海道のマリンレジャー拠点の形成	64
4.7 観光都市にふさわしい交流空間の形成	68
4.8 道央圏日本海側の防災拠点の形成	74
4.9 円滑な港湾活動を支える安全・安心な港湾空間の形成	78
4.10 将来プロジェクト・主な施策一覧	81
4.11 将来プロジェクト・主な施策位置図	82
4.12 将来プロジェクトにおけるまちづくりとの連携イメージ	83
第5章 空間利用計画	84
5.1 港湾利用ゾーニング【長期】	84
5.2 将来(長期)のゾーニング概要	85
第6章 将来イメージ	86
第7章 付属資料	
7.1 委員名簿	89

はじめに

小樽港の港湾計画は、平成9年に改訂（目標年次：平成10年代後半）されてから23年経過しており、我が国を取り巻く経済、社会情勢や本港の利用状況等が大きく変化し、その計画と現状の港湾利用に乖離が生じております。

このため、本港の開発、利用及び保全を行うに当たっての指針となる港湾計画を改訂することとし、改訂に向けた基本的な進め方として、20～30年後の長期的な社会、経済情勢の見通しや地域の将来動向などを考慮した港湾の発展方向となる「長期構想」を策定し、それをもとに10～15年先を見通した港湾計画を改訂していきます。

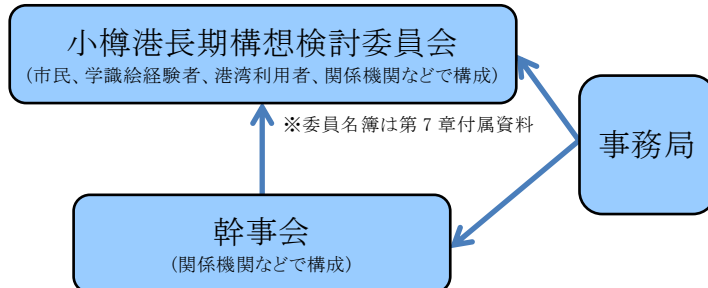
「長期構想」を策定するにあたり、発展方向の影響が経済面、社会面等の多岐にわたるとともに広範囲に及ぶこと、社会、経済情勢の変化に敏感に影響されることなどから、市民、学識経験者、港湾利用者などから幅広い意見を聴取し、将来の本港の目指すべき姿について合意形成を図るため、「小樽港長期構想検討委員会」を設置し、「小樽港長期構想」を策定するものです。

【長期構想の検討について】

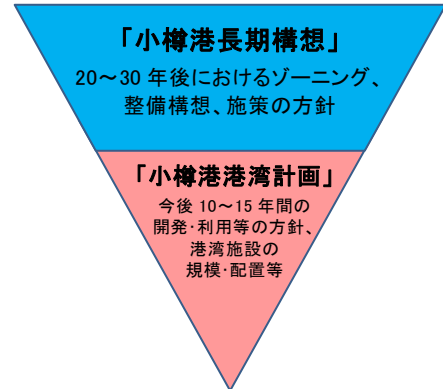
○ 長期構想の目標年次

長期構想の目標年次は、概ね 20～30 年程度の将来となる令和 20～30 年代とする。

○ 長期構想の検討体制



○ 長期構想と港湾計画の関係



○ 長期構想検討のスケジュール

年度	スケジュール	
(H28) 2016	第1回 (2016(H28)年8月25日) 委員会・幹事会	・小樽港の現状
(R1) 2019	第2回 (2019(R1)年11月25日) 委員会・幹事会	・現状と情勢を踏まえた課題等の整理
(R2) 2020	第3回 (2020(R2)年2月13日) 幹事会	・目指すべき姿(素案) ・将来プロジェクトの展開(素案) ・空間利用計画(素案)
	第3回 (2020(R2)年7月17日) 委員会	
	パブリックコメント (2020(R2)年10月1日～10月30日)	
	第4回 (2020(R2)年11月20日) 委員会・幹事会	・目指すべき姿(案) ・将来プロジェクトの展開(案) ・空間利用計画(案)
	長期構想策定 2020(R2)年12月	
(R3) 2021	改訂 (2021(R3)年7月予定) 小樽港港湾計画	